

練馬区立光が丘四季の香小学校（開校5周年記念）

# 学校だより



< 12月号 >

平成27年11月30日

TEL 03-3977-2711

校長 富澤素子  
第62号

教育目標：自ら考える子・思いやりのある子・たくましい子

HP <http://www.shikinokaori-e.nerima-ky.ed.jp/>

## 三手の読み

校長 富澤素子

「三手の読み」という将棋界の言葉があります。「三手」とは「自分・相手・自分」の「三手一組の読み」のことです。自分にとってベストの手を指した後、今度は相手の立場に立ってベストの手を選択します。つまり自分にとって一番不利な手を考えることなのです。将棋では自分の視点ではなく相手の価値観で考え推察することが大切なのだそうです。

一手打つのに、80通りあると言います。いろいろな可能性を考えるだけでも、頭が痛くなりそうです。二人で一局を作りあげていく過程を楽しむようです。家元から名人制度に変わり、400年もの歴史ある世界の話です。

将棋界で今も活躍している羽生喜治名人がいます。彼は、小学校1年生の時、友達から将棋の駒の動かし方を教わります。それ以来、夢中になってしまったそうです。「夏休み小中学生将棋大会」に参加したり、母親が買い物中、将棋道場に預けられていたりしていたようです。良きライバルにも恵まれ、15才でプロ棋士になります。中学生棋士は、史上3人目だそうです。

私でも知っているくらい有名になったのは、昭和63年の第38回NHK杯戦です。当時現役の名人経験者4人を全て破るという快挙を成し遂げた時です。解説者の興奮した声が、離れた対局室にまで聞こえたくらいと聞きます。

現在は、9段、王将位を取得、「7大タイトル」全て独占し、史上初の七冠王です。通算公式戦優勝回数125回、歴代単独1位です。最年少、最速、最高勝率で史上4人目の通算1300勝を達成し、特別将棋栄誉賞を受賞しています。さらに、7タイトルで永世称号の資格を保持しています。雲の上の話のような気がしてきます。

将棋を学ぶことで身に付くことに礼儀作法があります。「お願いします。」から始まり、「負けました。」「ありがとうございました。」で終わります。特に、悔しい気持ちを抑えて潔く負けを認めることで、精神が鍛えられます。対局中は無言です。自分との対話で集中力・思考力・決断力を養っているのでしょう。相手の一手を待つ間には、忍耐力や配慮を学べます。我慢して待つ時期を過ぎると、次の手を考える楽しいときになるようです。

審判のいない将棋界は、自己責任の勝負です。精神を鍛えつつ「三手の読み」を深めているのです。千数百対局していても、新たな発見があると言います。奥深さははかりしれません。

奥深いのは、教育界も同じです。「三手の読み」同様、子供のよさを読み解き、引き出す術を常に考えています。なかなか引き出せずにいるときには、保護者との強い連携も大切になってきます。学芸会で成長した子供たちを今後も共に同じ価値観で育てていきたいものです。変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。